「北陸・東北路」トコトコ道中記（前編）　　髙鍋　学

昨年の秋、京都を出発して青森県津軽半島の龍飛岬（たっぴみさき）を最終目的地とした「北陸道」トコトコ道中は、滋賀、福井、石川、富山を経て、新潟県長岡市まで 500km を歩いて一区切りをつけた。

一年ぶりとなる今回はその第 2 次。長岡市から北へ新潟市、胎内市と進み、そこから東へ方向を変えて荒川沿いの国道 113 号（米沢街道・小国街道）を経て山形県に入り、山形市、天童市までの 246km。11 日間 12 泊の旅だった。

旅に出る前にいつも気を使うのは靴だ。昨年は右足先が靴の中で横滑りして痛みだし、靴の中敷きを工夫して治まったものの、左足親指の爪が剥がれてしまった。これまで足が無傷で済んだことは稀である。毎日 1 日 5 万歩ほど歩くので、ちょっとした靴の不具合が大きなダメージとなる。足の左右バランスが悪いのも影響しているようだ。

どの道を通って行くのかは、旧五街道や四国遍路や熊野古道などのように決まったコースはないので、「10 万分の 1」の道路地図を使って決める。ポイントは、交通量の多い国道を避けて生活道路や長閑そうな道を選び、鉄道が通っている道を優先する。鉄道はその日の到着地に宿がない場合、宿のある所までの往復に欠かせない。今回は 2 回利用した。

宿も出発前に調べておく。今回泊ったのは、ビジネスホテルが 4 泊、旅館 2 泊、民宿 2 泊、ゲストハウス 2 泊、前後の移動に夜行バスで 2 泊した。

リュックサックは、地図、着替え、雨具、ライト、お菓子、水、などを入れて 5kg。

【前夜移動】2019 年 11 月 5 日（火）　晴　大阪－新潟県長岡市

夜行バスで大阪梅田を 22 時 10 分に出発。バスは越後交通と南海バスの共同運行便。運転手は 2 名。座席は 3 列独立シート。トイレ付。運賃 7,940 円。客は 20 名弱。一晩中夢うつつだったが、翌朝はスッキリと目覚めた。

【第 1 日】11 月 6 日（水）　雨のち晴 16°　長岡市－JR 燕三条駅　26km　8 時間 30 分

JR 長岡駅前 6 時 40 分着。到着前に車中でおにぎりとバナナの朝食を済ませる。早朝ではあったが、長岡の友人と 1 年振りに再開して少し話を交わしてから、雨の中を出発する。長岡と燕三条駅間のメイン道路は国道 8 号である。8 号をトータルで 4 割ほど歩き、残りは現在県道となっている旧国道を歩いた。昼食は道の駅「パティオにいがた」でおにぎりとパンを食べる。午後には雨が上がって暑くなり、ダウンとジャケットを脱いだ。16 時 30 分、上越新幹線燕三条駅の前にある宿に到着。旅の初日としては順調に歩けてホッとした。夕食はコンビニ弁当。出発してから到着までの時間は 8 時間 30 分だった。

宿は「コンフォートホテル燕三条」朝食付 6,800 円。コンフォートは朝食の質が良くなり、種類も増えている。

【第 2 日】11 月 7 日（木）晴 20°　燕三条駅前―新潟市 JR 新潟大学前　32km　11 時間

越後平野を北へ進んでいると、左手海側の山は低くても目につく。海に近い弥彦山（634m）と多宝山（633m）は、おにぎりを 2 つ並べたような形でランドマークになっている。長岡からそれを目印のようにして来て、今朝は、その弥彦山の麓近くまで進んでから、新潟市に向かう国道 116 号を行く予定を立てていた。しかし国道は騒音が激しかったので、少し遠回りにはなるが国道と並行して走る県道に道を変えた。道々には大きな社寺があり、栄えていた往時が偲ばれた。

＜歩道のない国道 116 号＞

県道は最後に国道 116 号と合流したのはよいが、そこから国道に歩道がなくなっている。おまけに夕方のラッシュ時。危険なのでライトを点けて反射ベルトをタスキにかけた。まなじりを決して大股で歩き、大型トラックが来れば立ち止まって風圧に耐え 5km を夢中で歩いた。どこにそんな力が残っていたのかと思う。通り抜けたころには辺りは真っ暗。道なりに進んでいると自動車専用道路の標識があって、歩行者通行禁止になっている。暗くて自分の位置が分からず焦ったが、スマホの GPS で何とか抜けだせた。新潟大学駅前に到着し「すき家」の牛丼定食で夕食を済ませ、宿に入った。出発から到着まで 11 時間。疲れた。

宿は「ゲストハウス・オリオリ」素泊 4200 円。3 年前に 50 歳くらいの女性が開業。女性らしい気配りがあり、寝室は 1 部屋を 6 つに間仕切って中にベッドを置き、出入口にはカーテンが取りつけてある。ゲストハウスは多様に進化している。

【第 3 日】11 月 8 日（金）晴 13°　新潟大学前－新潟市 JR 新崎駅　24km　8 時間 40 分

新潟市の中心街に向かうために JR 越後線が通る高台の住宅街を進むと、左下は海岸沿いに松林が続き、右前方に市の中心街が見える。その中でひと際大きく見えていた建物は県庁だった。新潟駅に着くと駅も駅前も「昭和」が色濃く残っている。金沢や富山や同じ新潟県の長岡でも、駅や駅前は近代的に整備されているのに、どうしたことかと思っていると、駅は建て替え工事の最中だった。鉄道発達の歴史や立地条件や自然災害など、いろいろな要因があって遅れたようだ。昼食は駅の地下で蕎麦を食べた。

新潟駅から新崎駅へ進む途中で海抜ゼロメートルの標識が幾つもあって、左の海側には大きな工場が続き、製紙工場の臭いもした。阿賀野川に架かる長い泰平橋を渡ると直ぐ白新線新崎駅に到着。駅から電車で新潟駅に戻ってホテルに入った。

信濃川や阿賀野川の雄大な流れを見ていると、越後平野は二つの川の賜物だと実感する。夕食は駅前のすし店で海鮮丼を食べ、腹いっぱいになる。

宿は「コートホテル新潟」素泊 4,200 円。駅に近くブッキングコムの最安値ホテル。

【第 4 日】11 月 9 日（土）　晴 16°　新崎駅－胎内市 JR 中条駅　31km　9 時間 10 分

新潟駅 7 時 15 分発の電車で昨日の新崎駅に戻ってから出発した。駅を出ると三幸製菓の会社があった。商品の「雪の宿」や「ぱりんこ」はよく食べている。米どころ新潟はせんべいの会社が目につき、昨年は長岡市に近い岩塚地区で「岩塚の黒まめせんべい」の本社工場に出合った。工場の直売店に寄って「黒豆せんべいを毎日食べている」（ほんとうの話）というと、せんべい 2 枚くれた。

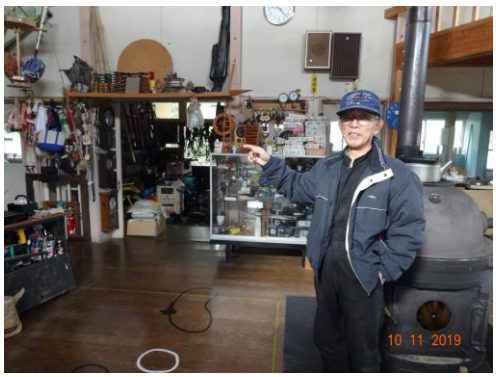
日本海側の北陸と東北で中心となる道は、京都市から新潟市まで国道 8 号、新潟市から青森市まで国道 7 号と名付けられている。計画ではその 7 号を行く予定だった。しかし地図をよく見ると少し遠回りになるものの、静かそうな道があるので急遽そちらにルート変更した。土曜日でトラックが少なく、田んぼの中に延びる県道 3 号を気分よくサッサと歩いて距離を稼いだ。最後の 5km は田んぼの用水路になっている小川の土手を歩き、日没にはなったが思ったより早く到着した。よい道だった。

＜土手の傍に白鳥がいた＞

宿は中条駅前の「村上屋旅館」夕食付 7,500 円。ちゃんとした夕食はありがたい。朝食は時間の関係で頼まないことにしている。居心地のよい旅館だった。

【第 5 日】11 月 10 日（日）　晴 14°　中条－新潟県関川温泉　20km　9 時間 10 分

絶好の歩き日和。ただ、日が陰ると途端に寒くなる。中条から 6km ほど進んだ羽越本線平木田駅付近で休憩をしていると、おじさんに声をかけられて傍の建物に招かれた。おじさんは新治さんといい、そこの主で御歳 67。10 年ほど前に売りに出ていた幼稚園を買い取って、薪づくり、木工、機械、電気などの工作室として使っていているという。部屋中に多数の作品があり、その多様さと道具類の充実ぶりに目を見張った。手づくりの薪ストーブの前でコーヒーを頂きながら聞くと、子供達を集めて物づくりの体験教室を開いており、その興味を引くために知らなかった分野の技術も勉強しているという。ジャンルの多様さと徹底ぶりに感服した。



＜ホビーハウスの新治さん＞

そこから少し北に進んで東北を横断する国道 113 号（越後街道又は小国街道）に入り、荒川に沿って東へ向かう。

宿のある関川で国指定重要文化財「渡邉邸」に立寄った。江戸時代の豪商農大庄屋で三千坪の宅地と五百坪の母屋があり、全盛期には七十五人の使用人、約一千町歩の山林経営と約七百町歩の水田から一万俵の小作米を収納した、とある。これまでに大庄屋の屋敷を何軒か見てきたが、こんなに規模の大きい屋敷は初めてだ。領有する土地も広く、交易も盛んだっ

たのだろう。屋根の造りに特徴があり、木羽（木の板）20 万枚と、その上に乗せる石が 1 万 5 千個使われているそうだ。隣にも豪壮な茅葺屋根が美しい屋敷が 2 軒ある。

宿は関川温泉の旅館「ニュー萬力」素泊5,500円。かけ流しの温泉。部屋数は多いが、建物も設備も古い。このままでは寂れていくばかりだろう。

＜渡邉邸＞

【第 6 日】11 月 11 日（月）　晴から雨　19°　関川温泉－山形県小国町　22km　9 時間

今日は距離も短く天気もよかったので、トンネル出来るまで使われていた川沿いの曲がりくねった旧道を 2 カ所歩いた。遠回りにはなるが、紅葉と渓谷の眺めは素晴らしく、猿の姿も時々見えて贅沢なひと時だった。朝食と昼食は、ゆで卵とせんべいとチーズとカロリーメイトで済ませた。のんびり歩いたので時間がかかり、宿に入った直後から猛烈な風雨。危ないところだった。

＜旧道から見た鉄道トンネル＞

国道 113 号は、関川から山間部を越えて山形県の平野部に出るまで 40km の間に、トンネルが 10 個程あって気になっていた道だ。昨年、福井県敦賀市のトンネルには歩くスペースがなく、引き返した経験がある。歩道ではなくても、一段高くなっている側溝の蓋さえあれば問題ない。113 号は幸運なことに、通ったトンネル全てに側溝があったので旅を続けることができた。

宿は小国町の民宿「ながおか」夕食付 4,500 円。やまめ釣り客が月に 4～5 人あるようで、60 歳代の主人は好感が持てた。掃除は出来ていなかったが、北海道音威子府村（おといねっぷむら）で泊った民宿に比べればマシだ。

＜後編につづく＞